

新米

コスモスといえ、ピンク、白、赤紫が主流ですが、たまに散歩道で黄色のコスモスが揺れているのを見かけました。やはり早咲きのコスモスもありますが、やはりコスモスは秋が一番似合いますね。やはりそういえば、昔、山口百恵さんが歌っていました。淡紅の秋桜が秋の日の黄色コスモスではありませんでしたが、何気ない陽だまりに揺れている。：：：「さて、あつという間に、陽が短くなってしまいました。すっかり秋です。収穫の秋です。新米のシーズンです。おやじさんの運転するコンバインで、あつという間に田んぼは、十センチほどの切り株を残しきれいに刈り取られました。しかも稲は脱穀され、コンバインから煙突状の管で息子の車に流し込んでいます。それが終わると、コンバインも車も次の田んぼへと走り去って行きました。農作業も機械化されずいぶん合理化されました。農作業も機械化され、私の家は農家ではありませんでした。が、

幼い頃、田んぼばかりの地域で育った私は、農作業は見慣れた風景でした。なかでも、その頃あちらこちらに立ち並んでいたハザ木に、刈り取った稲を架けていた様子がありません。おぼろげに浮かんでいました。おじさんが身をおぼろげに投げる稲束を、おじさんが身を乗り出すように受け取り、手際よく架けてゆく。架け終えた稲束の壁には、たくさんのイナゴがモゾモゾと動いていました。木綿の手ぬぐいと竹筒でイナゴ入れの袋をつくり、捕まえては竹筒の口穴から投げ込みます。たちまち袋はイナゴで一杯に膨らみ、モゴモゴとした感触が腰に伝わってきました。イナゴに夢中になってお呼びじゃない大きな腹をしたカマキリが目の前に：：：慌ててハザ木から飛び降りると、足は別のカマキリの上。地面にも居たので、今でもカマキリは苦手です。そんな虫たちも活躍したハザ木は、ありません。あんなにたくさんいたイナゴは、そんなどこへいったのでしょうか。新米は収穫の秋に新米が並んでいました。新米は収穫の秋を実感させてくれます。